

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570812362		
法人名	医療法人 長慶会		
事業所名	グループホーム 桜木荘		
所在地	大仙市協和船岡字上宇津野249-1		
自己評価作成日	平成24年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1
訪問調査日	平成24年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの習慣や生活スタイルに合わせてながら、自分らしく楽しみや役割を持って暮らし続けられるよう支援しています。また、歌が好きな利用者様が多いので時間を見つけては歌をうたって過ごしたり、体力がある方は、地域行事への参加や近隣への散歩、買い物などに出掛け、地域の方々との触れ合いもち、楽しんでいただけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広大な敷地内に、ホームの名前の由来となっている天然記念物の枝垂桜を始め、竹林等の木々や畑があり、地域の方々や山菜、野菜の収穫を楽しんでいます。近隣の方々の積極的な協力があり、2ユニットがそれぞれ特徴を持ち、独自の工夫をしながら、利用者は自然豊かな環境の中で、穏やかな生活を送っています。検討事項については、職員全員で協議して改善に繋げ、運営に反映させる取り組みが行われています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ毎日の朝礼で唱和し、共有認識をもち実践につなげています。	各ユニットで理念を設定し、日々接する中で、利用者個々の状況を理解し、事業所の基本理念が意識できるよう日々話しながら、心を込めてサービス提供されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者と共に地域の行事等(運動会)へ参加したり、地域の方より旬の野菜やあげびなどをいただくなど交流の機会をつくっている。	地域の方と山菜採りや敷地内の整備を行い、事業所の行事は近隣の方々も一緒に楽しむ等、地元ならではの交流があり、地域の一員として馴染みの関係がつくられています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	他施設の職員及びご利用者のご家族を対象に認知症サポーター講座を開催するなど、機会あるごとに伝えていけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、意見等に対しては早急に対策をたて実践に活かし、サービスの向上に努めている。	会議での意見、提案が活かせるように取り組み、運営に反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	研修や利用者の相談等で連携し、協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回の委員会報告と、毎月のケア会議を通して身体拘束につながる行為はなかったかどうか振り返りの場を設け、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日々話し合い、拘束のないケアに取り組んでいます。新規採用職員には、介護事故防止委員会のマニュアルを使用して説明し、身体拘束の内容が理解できるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等への参加や年に1回又は適宜に委員会を開催し虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。現場では気付きノートを用いて自分自身の行動を振り返り、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について職員へも学ぶ機会をつくり理解に努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時及び改定等があった場合は、書類を基に十分な説明を行い、理解・納得を図っている。また、ご家族が解釈に戸惑う内容については理解しやすいよう文章に変更するなど見直しをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置している他、運営会議の際や、面会時に家族の意見や要望を確認するなど利用者も含め、一人ひとりが気軽に意見を述べられるように心掛け、それらを運営に反映している	家族との関係は良好で、相談や要望があったときには、全員で話し合っって対応を報告されており、運営推進会議でも報告されています。記録に残すことで職員の振り返りができ、サービスの向上に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を開き職員の意見や提案を聞く機会を設け、サービス向上につながるよう反映させている。	活発に意見や提案が出され、職員全員で協議して改善された事項も多く、サービスに反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績を把握し、手当てに反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修年間計画を立て、職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修の機会を確保する他、復命書にて報告し現場でも活用できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践報告会や懇親会などの機会を通し同業者との交流を図り、ネットワークをつくりサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情などを察し、安心できる言葉掛けや本人の思いに耳を傾けたりと、良い関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族より意向や要望を確認し、サービスを提供する他、面会や電話連絡の際にも随時ご家族の思いに耳を傾けながら良い関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方が出来る事は、積極的に参加(手伝い)してもらい、お互いに助け合いながら暮らしを共にする関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	双方からの情報を共有しながら、共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会や住み慣れた地域への外出など関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅近所の方が遊びに来てくれることもあり、家族の協力も得ながら、生活歴を把握した支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、自席替えをしたり、軽作業やレクリエーション通じて関わり合い、お互いに支え合えるような雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族からの相談を受けたり、その後の状況をお聞きしたりと関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや要望に沿った暮らしができるよう努めている。	日頃から利用者の話をよく聞くことを心がけ、困難な場合は、日々の関わりの中から意向の把握に努め、職員間で情報を共有できるよう記録に残しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメントの他に、日々の関わりの中でご本人の生きがいや暮らしぶりなどを引き出し、介護記録に残し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を把握し、申し送り等で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前にご本人やご家族からの意向を確認したり、あるいは、サービス担当者会議へご本人に出席していただき、現状に即した介護計画を作成している。	ケアチェック表等を使用しながら担当職員がアセスメントを行い、サービス担当者会議で話し合っ、本人、家族の意向に沿った介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の状態を介護記録に記入し、毎朝申し送りノートを用いて職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への外出や馴染みの商店街での買い物、通い慣れた病院への受診の付き添いなど、地域資源を把握し安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はあるが、本人・家族の要望を大切に、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望する医療機関で受診されており、皮膚科、眼科の受診も適切に支援されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の看護師の訪問以外にも随時、状態変化が見られた際は情報を提供し、指示を仰ぎ適切な受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も家族、医療機関と密に連絡をとり安心して治療ができるよう又、出来るだけ早期に退院できるように情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で本人意思を確認し、重度化においても出来る限り本人・家族の希望に添えられるよう話し合いを重ねながら方針を共有し、かかりつけ医院等と連携を図り、チームで支援していきたいと考えている。	重度化した場合の事業所の指針に基づいた対応をすることを説明し、本人、家族の希望に応えられるよう取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、マニュアルを見直し、日頃から意識しながら業務に携わっていることから瞬時に対応が出来ている。定期的な実践訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方の協力をもらいながら、定期的に避難訓練を行っている。停電対策として発電機も設置している。	避難経路となる出口にはスロープを設け、近隣住民の協力を得ながら雪寄せも行い、安全に避難できるよう対策がとられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮しながらその人にあった言葉掛けや対応をしている。	尊敬の念を忘れずに接することを日常的に話し合い、一人ひとりの人格を尊重した対応をされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望に耳を傾け、本人が安心して自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを優先し、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	外出や入浴時の際は本人と一緒に服を選び、おしゃれを楽しめるよう支援している。 (季節や気候に合わせて)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を味わってもらえるよう、献立に取り入れたり、利用者の嗜好や要望に合わせて、メニューを変更しながら、食を楽しんでもらっている。下ごしらえ、配膳、下膳など出来ることを手伝っていただいている。	山菜やいただき物の野菜等、季節の食材を献立に取り入れ、テラスや中庭で食事を楽しむ等の気分転換も図られています。利用者毎に誕生日のお祝いをし、おやつにもそれぞれ工夫して提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量の状況を把握し記録に残している。入浴後や夜間の水分補給など個々の習慣や状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中での汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの促しと介助。夜間は、入れ歯を預かり、入れ歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の力や排泄パターンに合わせて誘導を行い、排泄の失敗を減らすとともに利用者の自立に向けた支援を行なっている。	日中と夜間で排泄用品の使用を変える等、利用者の希望や状況に合わせて対応し、可能な限りトイレで排泄できるよう支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維の多く含まれた食品の提供の他に、日々のレクリエーションの中では腸の動きを活発にする体操を取り入れ便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの健康状態に合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。お湯の量や湯加減も個々に合わせて調整している。	週2回以上は入浴できるよう支援されており、利用者同士が一緒に入ることもあります。拒否される利用者には声かけのタイミングをずらす等の工夫をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息を促したり、眠れない夜は、そばに付き添い、本人の思いに耳を傾けながら安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方内容を基に薬の目的や効能等をよく理解した上で使用できるよう努めている。臨時薬や薬の変更の際は職員間で繰り返し確認している。服用後の症状の変化においても密に医療関係者と連携を図り対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握しながら、山菜とりや家事仕事など昔を思い出しながら行なってもらったり、外の空気に触れ気分転換を図りながら過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	家族や地域の人々の協力をもらいながら、運動会への参加や馴染みの店や薬局等へ行く機会をつくるなど、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう、支援に努めている。	車椅子利用者も一緒に出かけて食事をしたり、畑作業や敷地内の草取り、散歩やテラスでの外気浴等、希望や習慣に合わせて個別に対応されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すべて立替金で行なっているが、個々で小銭程度は所持されている方もいる。買い物の際は、職員の見守りの元、代金の支払いを行なうなど、一人ひとりの力に合わせた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の支援や手紙を代筆したりと、本人の意向に合わせた取り組みをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりと過ごせる共有の空間作りに配慮し、季節にあった花や絵を飾るなど、誰が来ても居心地良く過ごせるように工夫している。	天井を高くして圧迫感が無く、広い廊下にはベンチが置かれています。居間からテラス越しに外の風景が眺められ、夏にはグリーンカーテンで陽射しを和らげる等、季節感を採り入れながら居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	居間や廊下にはソファを、テラスにはベンチを置き、利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた椅子やテーブル、小タンスや棚など使いやすい家具類を使用し、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	ベッドとタンス以外は利用者が使用していた物が持ち込まれ、写真等を飾ってそれぞれの意向に沿った居室づくりをされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な部分には手すりを設置し、安全かつ出来る範囲で、自立した生活が送れるように工夫している。		